

薬

の飲み残しは ありませんか？

国民健康保険の医療費は、加入者みなさんの保険税に加え、国や県からの補助金などで賄っています。

飲み残しの薬（残薬）があるのに、また新たに同じ薬をもらうことが医療費の増加の一因となっています。残薬を減らせば、医療費を大幅に節約することができます。

処方された本人の薬なら、再利用できることもあります。手元に残薬がある場合は、まずはかかりつけのお医者さんやかかりつけ薬局の薬剤師さんに相談しましょう。



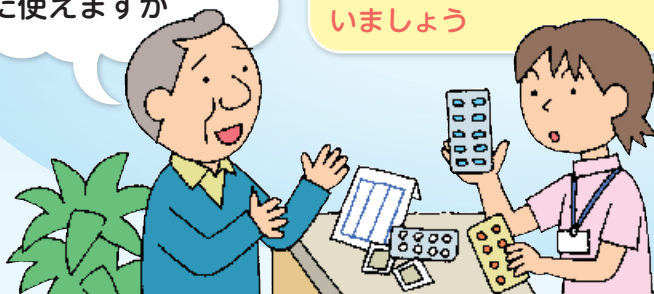
手元に薬がたくさん残っていたら

薬局にまとめて持って行きましょう！

薬剤師さんが、薬の種類、量、使用期限などを確認し、まだ使える薬は使い、お医者さんに相談して処方进行调整してくれる場合があります。

こんなに薬が残っているのですが、まだ使えますか

これは使用期限が過ぎているので、処分しますね
こちらはまだ使えますから、先生に言って、処方の量を減らしてもらいましょう



多剤服用に注意！ 薬の種類が多くないですか？

多剤服用の中でも、副作用など害をなすものを特に「ポリファーマシー」と呼び、問題になっています。薬の種類が多いときは、薬剤師さんに相談しましょう。

お薬手帳を 活用しましょう！

お薬手帳は自分が使っている薬の名前・量・日数・使用法などを記録できます。副作用歴、アレルギーの有無、過去にかかった病気、体調の変化などについても記入できます。

自分で工夫！

自分でも薬を飲み残さないように工夫できます！

お薬カレンダーを活用

あらかじめ、薬を1回分ずつまとめ、カレンダー上のポケットに入れておきます。

常に食卓に置いておく

ほかのものに紛れないように、薬以外のものを食卓の上に置かないようにしましょう。

ピルケースを活用

ピルケースに薬を小分けして入れ、いつもかばんに入れておきましょう。

薬に油性ペンで飲む日付やタイミングを書く

薬をもらったら、すぐに飲む日付や朝・昼・夜などタイミングを書き込んでおけば、薬を飲んだかどうか一目瞭然です。

家族に声をかけてもらう

「薬飲んだ？」と食事ごとに確認してもらいましょう。

携帯電話などのアラーム機能を利用する

薬を飲む時間にアラームが鳴るように設定しておきましょう。



ジェネリックで!



安心・安全・家計にやさしい

ジェネリック医薬品を 利用しましょう

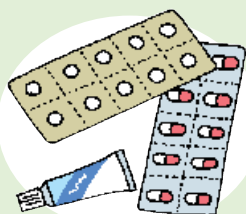
ジェネリック医薬品とは?

ジェネリック医薬品は後発医薬品ともいい、最初に開発された薬（先発医薬品：新薬）の特許が切れたあとにつくられた薬のことです。



新薬と同じ有効成分・ 同等の効き目です

ジェネリック医薬品の成分や効き目、安全性は厚生労働省により認められています。



開発コストが少ない分、 低価格です

新しい薬を開発するには年月もお金もかかります。ジェネリック医薬品は開発費が大幅に抑えられる分、安い価格にすることができます。

ずっと使われている 薬なので安心です

ジェネリック医薬品のもととなる新薬は、長い期間ずっと使われている薬です。ですから、安全性は実証されています。

新薬より改良が進んでいる 場合もあります



ジェネリック医薬品は、新薬に比べて飲みやすさや副作用を抑える工夫などの改良が進んでいる場合もあります。

ジェネリック医薬品に切り替えるときは

「お試し調剤」から始めることができます

ジェネリック医薬品のお試し期間を設けることができます。お試し調剤（分割調剤）について、くわしくは薬剤師さんにご相談ください。

お薬手帳などに薬効を記録しましょう

薬を飲んだときの様子を、お薬手帳などに記録しましょう。前に飲んでた薬と効き目などが異なるようなら、すぐにお医者さんや薬剤師さんに相談しましょう。

**ご注意
ください!**

- すべての薬にジェネリック医薬品があるとは限りません。
- 自己負担額がそれまでとあまり変わらない場合もあります。
- ジェネリック医薬品がある薬で新薬を希望する場合、その価格差の4分の1相当の料金を負担していただく場合があります。

